



言心先生の中国便り

文明の洗脳(一)

六月三日は、来日三十年の節目の日である。三十年の歳月はあつという間に過ぎたが、本当に感慨深いと思う。

一九八八年六月三日、上海からの航空便で成田空港に午後四時頃に到着、日本の大地を初めて踏んだ。記憶では当日は小雨が降っていたが、環境はとてもきれいだと感じた。

当時就学していた日本語学校が江東区亀戸にあるため、最初は平井に住む友人の家に泊まっていた。来日した次の日に街へ出た。当時は携帯電話、パソコンも無く、道路沿いの電話ボックスが新鮮だった。

私は、毎朝必ずNHKの朝のドラマ『半分、青い』を鑑賞している。この作品の主人公は田舎の岐阜から上京し

た。彼はバブルが崩壊する前の夜の東京に興奮の連続であるが、もともと遠く、貧しく、田舎の中国からやってきた筆者には、刺激の極みともいえる。

当時はバブル絶頂期なのに、日本語ができない筆者にとつてはバブルなど全然関係がなく、毎日家でごろごろしていた。日本語学校の先生以外で、隣に住む八十代のおばあさんが初めて対話した日本人であった。親切なおばあさんにお茶を差し上げたが、気にもとめずすぐに忘れてしまった。

数日後、平井から亀戸に引っ越した。宿泊させてくれた友人に、隣のおばあさんは「あの子はいつ帰ってくるのか」と何度も確認したそうだ。

それから数週間後くらいに友人の家に行くと、椅子に座つたと同時に、ノックの音を聞こえてきた。ドアを開けると、隣のおばあさんが何本も

のジュースを持って、目の前に現れた。おばあさんからジュースを渡されると同時に丁寧なお礼の言葉をいただき、最後はお辞儀をしてくれた。

中国人の悪狡さと比べる、日本人の純粋さ、正直さ、丁寧さに実に驚いたと同時に大好きになった。あのおばあさんの優しい笑顔は一生忘れられない。



陶陶酒本舗の  
栄養補助食品

通信販売

携帯電話、PHSからもOK!



0120-039-064

<電話料無料>お問い合わせ/午前9時~午後5時 月~金(祝・祭日等除く)・お申し込み/午前9時~午後9時 年中無休

オンラインショップ

